



学校報 梵天

E-mail ouchi-es@edu.city.yurihonjo.akita.jp
<http://www.city.yurihonjo.lg.jp/edu/ouchi-es/index.html>

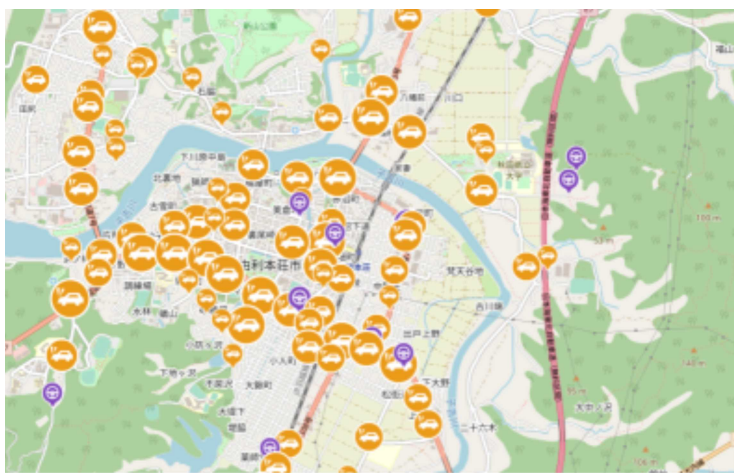
由利本荘市立大内小学校 校長室から
令和5年10月3日 No. 21

Ⅲ期：ワンランク上を目指す（10月～12月）

- 学習指導：学び合いながら考えを深めたり広げたりして、自分を高めよう
（ゴールが分かる授業づくり、学習環境の充実、話し合いの充実など）
- 生徒指導：友達と協力して取り組もう
（友達と協力、時間を守って生活、きれいで安全な学校）
- 特別活動：学んだことを表現活動に生かそう
（児童会活動の充実、体験活動の充実）

「デジタル交通安全マップ」

由利本荘市では、6月に「第1回セーフティドライブ選手権」を開催し、その走行データに基づいて、危険挙動箇所（急加速、急ブレーキ、急ハンドル、スマホ使用、速度超過）をマッピングした「デジタル交通安全マップ」を作成しました。「デジタル交通安全マップ」は由利本荘市HPで閲覧することができます。



左の安全マップは市役所周辺の物です。
HP上の画面右側の急ブレーキ、急ハンドルのアイコンをクリックして、マップの道路上に走行状況が分かるようにしてみました。ちなみに大内小学校付近の国道105号ではスマホ使用が見られました。ぜひ、「デジタル交通安全マップ」をご覧になり、どこにどんな危険があるのか、気を付けるところはどこかなど、子どもたちに教えてあげてください。

・ ・ ・ お 知 ら せ ・ ・ ・

先日、「学ぶんタイピング競技会」のお知らせを再配布いたしました。応募期間が9/26まででしたが、10/10（火）まで、延長になったお知らせが市よりありました。スマホやタブレットは指を動かすだけで操作できますが、これから子どもたちに必要とされるプログラミング等のコンピュータの操作には、タイピングが必要です。秋休みの期間にぜひ参加してみましょ。

なぜ、鉛筆を正しく持たないといけないの？

文字を書くとき、どうして鉛筆を正しく持たなければならないのでしょうか。まずは、正しく持つことによさを上げてみると…。

- ・ちょうどよい筆圧で文字を書くことができ、長時間、文字を書いても疲れにくい。
- ・手元がよく見えるので、文字をバランスよく書くことができる。

以上が挙げられるのではないのでしょうか。また、鉛筆の持ち方は書くときの姿勢にも大きく関係しています。正しくない持ち方では、手元が見えないために書いている文字を見ようと手元をのぞきこんで寝そべるように書いてしまったり、体をねじった姿勢で文字を書いてしまったりします。正しい持ち方をすると、姿勢が崩れることはありません。長時間文字を書いても疲れがないのです。これは鉛筆だけでなく、様々な道具について言えることだと思います。「正しい持ち方＝正しい使い方」ができるということは、とても大切なことです。以前、カッターナイフの使い方を指導したときのことから感じたことを紹介します。

※ 以前書いた学級通信です。(大分前になってしまいました)

カッターナイフを使ってみて

図工でカッターナイフの使い方を学習します。そこで、今週の図工の時間に初めてカッターナイフを使いました。「手を切ったらどうしよう。」「でも使ってみたい。」とワクワク、ドキドキの中で授業がスタートしました。

カッターナイフは、刃物ですから、間違えた使い方をするととても危険です。最初に持ち方、次にどの方向に切るかを確かめてから学習を始めました。

「カッターナイフの正しい持ち方は、鉛筆を持つようにカッターナイフを持つ！」

さて！カッターナイフを持ってみると困ったことが！

鉛筆の持ち方が正しくない人はカッターナイフも同じように持ち、うまく力が入らず四苦八苦。また、手元がよく見えず、カッターの刃を動かすことも難しいのです。

そこで、一人一人正しい持ち方になるように確かめてから、実際に紙を切りました。みんな緊張しながら、刃が進む方向には絶対に指を置かない事にも気を付け、誰一人ケガすることなく図工の時間を終えることができました。

これから、いろいろな道具の使い方を学習していきます。道具を安全に使うためには、正しい使い方を身に付ける必要があります。これを機会に正しい道具の使い方（もちろん鉛筆も）身に付けようと、子どもちに呼びかけました。

恥ずかしい話ですが…

私は、正しい箸使いができませんでした。子どもの頃は正しくないと言われても知らんぷり。直すことのできる機会はたくさんあったのに、今考えるととても残念なことです。

箸の持ち方を直そうと努力したのは学生時代です。友人達と食事をしていると、みんな美しい箸使いで、私は握り箸のような持ち方、さすがにとっても恥ずかしくなりました。正しい持ち方を友人達から教えてもらい、特訓しました。癖は直るんですね。しばらくは大変でしたが、正しい持ち方ができるようになりました。正しい持ち方をすると、小さな物も箸で楽々つまみ上げることができます。正しい持ち方というのは、理にかなったものだと実感しました。

私は大人になってから直したので、指がつってしまいそうになりながら食事をしたこともあり大変でした。子どもたちは、柔軟な体と頭の持ち主です。最初は大変でも、早く直せるのではないかと思います。

子どもたちが、正しい道具の使い方（鉛筆、箸の持ち方等）を身に付けられるようにがんばってみませんか。